

平成 27 年度学校評価結果報告書
(中間評価)

平成 27 年 10 月 30 日

広島県立福山葦陽高等学校
(定時制課程)

目 次

1 自己評価結果

(1) 平成 27 年度自己評価シート（中間評価）・・・・・・・・・・ 2

(2) 平成 27 年度自己評価シート（中間評価まとめ）・・・・・・・・ 4

2 学校関係者評価結果

(1) 平成 27 年度学校関係者評価シート（中間評価）・・・・・・・・ 6

平成 27 年度自己評価シート(中間評価)

校番	012	学校名	福山葦陽高等学校	校長氏名	藤井 悦子	定時制	本校
----	-----	-----	----------	------	-------	-----	----

※評価基準 [A:計画はとてども順調に進んでいる。B:計画は概ね順調に進んでいる。C:計画はあまり順調に進んでいない。D:計画は全く順調に進んでいない。]

学校経営目標					
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等	
1 「強く」 自ら考え行動することで、人生を切り拓いていくことができる確かな学力と体力を育成する					
生徒の主体的な相互活動を促すことにより、基礎学力が定着し、それを活用する姿勢が育まれている	ア 学び直しを行うと同時に、就職・進学それぞれのニーズに合わせた教材を作成する。	B	・現在考査実施が3回であり取組途中である。	教務	
	イ 各教科の単元ごとに、基礎・基本の定着を行うとともに、既習事項を活用する演習問題を取り入れる。	A	・定期考査での活用問題について、全教科で出題をしている。	教務	
	ウ 国語、外国語、情報・商業検定を周知し、受検を勧める。 受検希望の生徒には個別指導を行う。	B	・一学期末での延べ人数は 28 名であり、合格者増に向け取り組んでいる	教務 進路指導	

【評価結果の分析】

- ・ア について、各教科の基礎的基本的な分野の学習について学び直しを行っている。特に、国語、数学、外国語では、基礎力の定着を図る問題を定期考査に出題しており、目標値である一学期中間から三学期末での通過率が5% アップをめざし、学力の定着を図っている。
- ・イ について、既習事項を活用する演習を定期的に取り入れている。発表や文章記述に対する生徒の抵抗感はあまりなくなっている。定期考査での活用問題の出題は、目標値 100%が達成できている。
- ・ウ について、検定に取り組む意欲を高める工夫を各教科で行っている。また、個別指導もきめ細かく行われており、合格者数は、目標値 30 名に対し、28 名となり、成果が出ている。

【今後の改善方策】

- ・ア について、学習内容の確実な定着を図るため、特別支援教育の視点を取り入れ生徒のつまずきに対して的確な手助けができるようにする。
- ・イ について、引き続き既習事項を活用する問題を取り入れるとともに、実生活との関連を意識させたり、出題形式を工夫したりして生徒の学習意欲を高める。
- ・ウ について、検定を受ける意義を理解させ、受検に対する意欲を高める。表彰は全校生徒の前で行い、全体のモチベーションを高める。

2 「正しく」 自ら律し他者と協働することで、地域や社会に貢献していくことができる態度を育成する					
自己肯定感が高まり、社会性を身につけるとともに、勤労観・職業観を醸成し卒業年次の進路実現が図られている	ア 社会性（挨拶、時間を守る、身だしなみ）を醸成するとともに、特別指導の対象者に生徒指導の三機能を取り入れて面談を行う。 クラスごとに遅刻数の達成目標を立てる。	B	目標値をわずかではあるが上回っている。	生徒指導	
	イ 生徒主体の生徒会活動を行い、多くの生徒が行事に参加する中で、自己と他者を尊重する態度を育成する。学校アンケートで行事の満足度を調査し、生徒会指導に反映する。	B	全生徒に対するアンケートでは、目標を上回っている。	保健美化	
	ウ 進路希望先の早期決定、実現を図る。 在学中の就労についての指導に力を入れ、就労率の向上を図る。 夏季指導の定着充実を図る。 オープンスクール、学校説明会、企業見学への参加を促す。 インターンシップを計画する。 資格取得者の増加を図る。 合格体験・就労体験発表会などを実施する。	B	・概ね本年度の行動計画に沿って指導を進めることができています。	進路指導	

【評価結果の分析】

- ・ア について、「特別な指導」に関しては、「自己決定の場を与える」、「自己存在感を与える」、「共感的人間関係を育成する」を意識して指導した結果、再指導率は 18.8%となっている。再指導について、目標値の 18%を達成できていない。
- ・挨拶に関しては、挨拶の大切さを感じている生徒は多いが、挨拶をする習慣が身につけていない生徒が一定程度存在している。アンケート結果では、毎日挨拶をする生徒の割合は、60%。であり、目標値の 70%を下回った。
- ・遅刻指導に関しては、目標値である月間遅刻数が1以下の生徒数 18 名に対して、29 名となり、一定の成果を得ている。学期末に精勤者表彰と遅刻が少ない生徒の紹介をしたことが今後につながると思う。
- ・イ について、学校行事の満足度は全生徒のアンケート結果では 82%で高く、目標値 70%を超えている。遠足や生徒総会・スポーツ大会、芸術鑑賞の参加率は、平均 72.8%と多くの生徒が参加している。しかし、集団での行動を苦手とする生徒の満足度が上がらない。
- ・ウ について、就職希望者9名の一次試験応募ができたが、2名(進路変更1名、高卒認定合格に伴う卒予者1名)については、応募を見送ることになった。1学期末の就労率は、63.7%である。(昨年同時期 56.5%)

【今後の改善方策】

- ・ア について、「特別な指導」につながる問題行動に対し、毅然とした態度で応ずることで、問題行動自体を減少させるよう、積極的指導を行う。授業や集会での挨拶を意識して行わせ、挨拶が習慣化することを目指す。また、遅刻指導に関しては、遅刻防止週間を設定し、遅刻をしないことを意識させる。
- ・イ について、行事におけるグループ分け、実施日等、一人でも参加しやすい運営方法を工夫する。また準備を計画的に行い、行事前の雰囲気づくりを行い、生徒の参加意欲を高める。
- ・ウ について、進路指導部として、生徒一人一人が自己の進路実現へ向けて積極的な行動が取れるよう教職員と連携して支援していく。保護者への情報提供や定期的な連携を深め理解と協力を仰ぐ。また、体験発表会等を通して、相互に刺激し合い学業と仕事を両立させていく定時制の学びのスタイルについて意識喚起していく。

3 「美しく」 グローバル化する社会の中で、多様な人々とつながることができる姿勢を育成する				
地域に学ぶことを通し、社会的な視野を拡げ、他者と共生できる姿勢が身につけている	ア 外部講師を招いての講演会、地域の文化施設訪問等の「体験的な学び」を企画するとともに、実施を通し、生徒の社会的な視野を拡げる。	B	・2学期中盤から実施予定である。	教務 生徒指導
	イ 校外清掃等の実施を通し、生徒のボランティア活動への関心を高める。	B	・校外清掃は10月以降に実施予定であるが、福祉施設でのボランティア活動は8月に実施した。	保健美化

【評価結果の分析】

- ・ア について、「体験的な学び」に関しては、10 月末及び 11 月中旬に実施予定であり、計画的に準備ができている。
- ・イ について、校外清掃に関しては、計画的に準備ができている。8月に実施した福祉施設のボランティア活動に参加し、ボランティア活動に関心を持つ生徒も出ている。

【今後の改善方策】

- ・ア について、「体験的な学び」に関しては、実施前の事前学習を行い、学習の意義を確認させる。事前事後で自己の変化が実感できるようワークシート等を工夫する。
- ・イ について、LHR時の清掃や学校行事の役割分担を配慮し、生徒の自己有用感を高め、ボランティア活動への関心を高める。

平成27年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	012	学校名	福山葦陽高等学校	校長氏名	藤井 悦子	定時制	本校
----	-----	-----	----------	------	-------	-----	----

1 評価結果の分析

■「強く」自ら考え行動することで、人生を切り拓いていくことができる確かな学力と体力を育成する

各教科の基礎的基本的な分野について学び直しを行う…定期考査における基礎学力問題の通過率上昇
 目標値: 国語 数学 外国語各5%アップ(1学期→3学期) 現在継続して取組中(3学期の結果をもとに検証を行う)
 課題…通過率改善へ向けた方策? ⇒ **基礎的基本的な分野の定着**

評価 B

既習事項を活用する演習を授業に取り入れ、考査に出題する…定期考査での活用問題の出題率 目標値: 各教科 100%の出題
 定期考査(1学期中間、期末、2学期中間)での活用問題の出題は 100%である。
 課題…既習事項を活用する演習? ⇒ **生徒の相互交流を取り入れた能動的な授業**

評価 A

国語、外国語、情報・商業検定を周知し、受検を勧める…検定試験合格者数 目標値: 年度末 30名
 一学期末での検定試験合格者数 28名 であり、年度末の目標値 30名に向け取組中である。
 課題…検定の周知と受検者増をはかる? ⇒ **検定試験へ向けた指導の充実**

評価 B

■「正しく」自ら律し他者と協働することで、地域や社会に貢献していくことができる態度を育成する

校則の遵守、規範意識の醸成…「特別な指導」件数の中での再指導率 目標値: 再指導率 18%
 一学期末での再指導率 18.8%(再指導者 6件 「特別な指導」総数 32件) であり、目標値 18%を達成できていない。
 課題…再指導者の減少? ⇒ **生徒指導の三機能を取り入れた粘り強い指導**

評価 B

生徒主体の生徒会活動を行い、行事への参加を通し、社会性を養う…生徒アンケートによる生徒会行事満足度 目標値: 70%
 学校行事の満足度は全生徒のアンケート結果では 82%で高く、目標値 70%を超えている。遠足や生徒総会・スポーツ大会、芸術鑑賞の参加率は、平均 72.8%と多くの生徒が参加している。
 課題…集団での行動を苦手とする生徒の満足度が低い? ⇒ **満足度を高める取組**

評価 B

卒業予定者全員の希望進路を実現する…進路実績 目標値 100%(年度末):「進路実現率(%)」
 75%(12人/16人) 10月末での実績値 75%は、目標値 100%(年度末)を下回るが、卒業予定者全員の進路決定に向け取組中である。
 課題…進路目標の明確化? ⇒ **日常的な個別対応**

評価 B

■「美しく」グローバル化する社会の中で、多様な人々とつながることができる姿勢を育成する

「体験的な学び」の実施を通して、生徒の社会的な視野を拓ける…体験的な学びにおける社会的な視野が広がった生徒の割合
 目標値: アンケート結果 60% 10月末及び11月中旬に実施予定であり、計画的に準備ができています。
 課題…実施が生徒の社会的な視野を拓ける学習の機会となっているか? ⇒ **事前及び事後指導の充実**

評価 B

校外清掃等の実施を通し、生徒のボランティア活動への関心を高める…校外清掃活動等への参加率 目標値: 80%
 校外清掃に関しては、計画的に準備ができています。8月に実施した福祉施設のボランティア活動に参加し、ボランティア活動へ関心を持つ生徒も出ている。

評価 B

課題・・・地域清掃を通したボランティア活動？⇒ボランティア活動への積極的な参画

2 今後の改善方策

■「強く」自ら考え行動することで、人生を切り拓いていくことができる確かな学力と体力を育成する

学習指導について：基礎的基本的な分野の定着

- ・特別支援教育の視点を取り入れた授業改善を行う。座学と実技をバランス良く取り入れる等、生徒の特性に合わせた指導を行う。
- ・英語、数学、国語の教科を中心に学び直しを継続的に行う。

知識の活用について：生徒の相互交流を取り入れた能動的な授業

- ・授業で、引き続き既習事項を活用する演習を行うとともに、発表・相互交流を取り入れ生徒の学習意欲を高め、授業内容の定着をはかる。

検定試験受験への取組について：検定試験へ向けた指導の充実

- ・教科、HRで、検定を受ける意義を理解させ、受験に対する意欲を高める。表彰は全校生徒の前で行い、全体のモチベーションを高める。
- ・受験希望者に対し、個別指導を行う。

■「正しく」自ら律し他者と協働することで、地域や社会に貢献していくことができる態度を育成する

校則の遵守、規範意識の醸成について：生徒指導の三機能を取り入れた粘り強い指導

- ・「自己決定の場を与える」、「自己存在感を与える」、「共感的人間関係を育成する」を意識し、粘り強い指導を継続する。
- ・「特別な指導」に繋がる問題行動に対し、教職員のベクトルを揃え、毅然とした態度で応ずることで、問題行動自体を減少させるよう、積極的指導を行う。

高校生活に対する満足度について：満足度を高める取組

- ・集団での行動を苦手とする生徒について、行事におけるグループ分け、実施日等、一人でも参加しやすい運営方法を工夫する。
- ・準備を計画的に行い、行事前の雰囲気づくりを行い、生徒の参加意欲を高める。

進路指導について：日常的な個別対応

- ・進路指導部と担任による面接指導を重ね、自己の進路実現へ向けて積極的な行動が取れるよう支援していく。
- ・保護者への情報提供や定期的連携を深め理解と協力を仰ぐ。

■「美しく」グローバル化する社会の中で、多様な人々とつながることができる姿勢を育成する

「体験的な学び」について：事前及び事後指導の充実

- ・実施前の事前学習を行い、学習の意義を確認させる。事前事後で自己の変化が実感できるようワークシート等を工夫する。

ボランティア活動について：ボランティア活動への積極的な参画

- ・LHR時の清掃や学校行事の役割分担を配慮し、生徒の自己有用感を高め、ボランティア活動へ積極的に参画させていく。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・自己評価の結果に基づき、現状や取組み内容などを丁寧に整理・分析し、目標が達成できるよう課題点を明確にし、後半の取組みに活かす。
- ・規範意識を育む指導については、組織的で統一した指導を徹底するとともに丁寧な個別指導を継続して行う。
- ・進路については、生徒個々の状況に応じ、きめ細かい指導を継続し、卒業予定者全員の進路実現に向け取組をすすめていく。

平成 27 年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成 27 年 10 月 29 日

校番	012	学校名	福山葦陽高等学校	校長氏名	藤井 悦子	定時制	本校
----	-----	-----	----------	------	-------	-----	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標、指標、計画等がしっかりと設定されており、取組内容、項目ともわかり易い。 ・勉強と社会性を上手に身につけさせるという目標設定は適切である。 ・評価指標に対して、目標値が徐々に上向きよう設定がなされているが、挨拶、遅刻、清掃等は、学校が一丸となって一気に改善させるよう重点的な取組を工夫してもらいたい。
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての項目がB評価以上であり、順調に取組が進展していることがよくわかる。 ・現在の進路実績からすれば、評価が整合しておらず、経緯が不明瞭である。目標値を達成するための見通しを明確にし、後半へ向け取組んでほしい。
目標達成に向けた取組みの適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・取組みについては、概ね目標達成に向けた適切なものになっているが、今後に取り組む課題について明瞭でない項目がある。取組課題を明らかにし、検証していくことが求められる。
評価結果の分析の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各項目の評価についても概ね適切であり、よく検討された分析内容である。 ・検定試験の合格実績が上向いていることは、先生方の取組が適切であると評価できる。
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> ・当たり前のことが当たり前ででき、生徒が感動できる場面を与えることができるよう努力している様子がうかがえる。 ・何れの改善方策も教職員の意欲的な取組にかかっており、特に評価が低い項目について、目標が達成できるよう課題を共有しスキルアップを図ってほしい。
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的に適切な評価結果となっている。ただ、取組内容と目標の結びつきについて検証する必要がある。検証結果を基に、目標達成のために、途中からでも取組の修正を図り、内容のレベルアップを図ってほしい。 ・様々な課題を持っている生徒が多いと推察され、挨拶ができていない生徒が多いことが気になる。生徒に社会性と生きる力をつけるような教育活動をお願いする。 ・学業と仕事の両立に努力する生徒の気持ちを理解し、よく取組んでいる。